

## ハワイ研修報告

平成29年7月23日(日)から30日(日)の間、32名の2年生を連れて、ハワイ・スタディーツアーに行ってきました。今回の研修を振り返って印象に残っているのは、プログラムの完成度、生徒の成長の様子とハワイの風物でした。今回の旅のテーマは語学研修、ハワイの文化体験、日系移民について知る、ということでした。単なる観光とは異なり、生徒も目標をよく理解しているため、すべての行程が有意義で、学ぶものがありました。事前研修として、P先生によるアメリカを旅行するための基礎知識と基礎会話、A先生とD先生によるハワイの歴史と地理の講義。そして事前に **Picture Bride** を視聴しました。語学研修としても充実していて、生徒も英語を使うことへの羞恥心やためらいのようなものが次第に薄れ、伝えたいという気持ちが日々育つのが傍目にもわかりました。やはり生活の場で(買い物、会話、テレビなどすべて)において英語が用いられる環境は学びの上でプラスに働くようです。ぜひ多くの生徒にあらゆる機会を生かしてほしいと感じます。ハワイは気候も人もフレンドリー。温かな過ごしやすい気候と大自然、くしゃくしゃにした笑顔とシャカ・ポーズ(小指と親指を立てる)、それを返す感覚。とても楽しませていただきました。さて、写真に残らない事柄を、記憶が新しいうちに残しておこうと思います。

初日。関西空港に集合した生徒は緊張と興奮が混ざった様子。ケント地区からきた一団を見送ったのがなんと前日、同じ場所。駆けつけてくださった校長先生と保護者の皆様に送られながらゲートをくぐりました。セキュリティー・チェックを受けて、搭乗口で再集合し、搭乗しました。飛行機の機体に触れ、機内特有の匂いを嗅ぎ、旅の始まりです。

生徒は離陸の様子を楽しんだあと、映画を見たり、機内のゲームをしたり、宿題をしたりして、それぞれに過ごしているようでした。僕は後ろから「先生、君の名は、を見てる」と噂されながら、映画を楽しみました。飲み物のサービスのあと気流の加減のせい機体が揺れだしました。そろそろ機内食かというときに例の「ピン」と「ポン」の中間ぐらいの嫌な音が鳴り、シートベルト着用のサインが点灯しました。(その時、映画の方ではで彗星が町に降り注いでいたため、揺れに対して必要以上の恐怖を覚えました。)

そのうち揺れも少しおさまり、機内食が配膳されました。シチューが美味しく、食事を楽しみました。結局寝ることができずに(機内で寝られた試しがないのですが)、気が付くとハワイ諸島がマップに現れました。着陸態勢に入り、ほとんど自然のままのマウイ島が窓から見えました。遠目にも水が透き通っているのがわかり、生徒も食い入るように眺めていました。しばらくすると、マウイ島とは全く様子の異なる、オアフ島が見えてきました。よく整備された見事なリゾート地。降りるときキャビン・アテンダントさんに、こんなにマナーのよい高校生は初めてです、と褒めていただきました。

着陸すると入国審査を通過。機械化が進んでいて、多くの生徒は全自動の入国審査。直前に“studying”と冗談を言い合っていた生徒は“sightseeing”と言わずじまっていたのかも

しれません。

ターンテーブルを通過して外に出ると、花の甘い香りと、澄んだ青い空。バスに乗り込み、モアナルア・ガーデン（日立の樹）に行きました。CMで有名な樹は想像していたよりも大きく、木陰（ちょうど北野の中庭くらい）に入るととても涼しく感じました。バス



に戻り、現地ガイドさんのお話を聞きながらレストランに向かいました。大阪くらいの蒸し暑さでしたが、それは異常気象で貿易風が吹いていないからだそう。陽気な街並みを楽しみながら、カメハメハ大王像、アロハ・タワーを眺め、食事会場に向かいました。海に臨むレストランはテラスがおしゃれで、天井から吊られた木製のファンが回っていました。生

徒もくつろいでいる様子。ロコモコはグレービーソースのシンプルな味付けで、香ばしく焼かれた、いかにもアメリカの肉という感じ。

食事がすむとヌアヌ・パリに向かいました。ヌアヌ・パリはハワイ語で涼しい丘という意味で、絶えず海からの風が吹き寄せるそう。また、カメハメハ大王がオアフ島を統一する際の戦場にもなったそう。バスを降りると強い風が吹き、断崖に到着すると、ハワイの大自然。切り立った山、青々とした木々、遠くに海と空。大パノラマの絶景。



バスに乗り込み、アラモアナ・ホテルに向かいました。ワイキキの市街とビーチを通過するころには生徒はモイモイ・タイム（ハワイ語で睡眠タイム）。時差と睡眠不足のためか、すやすやと休んでいました。ホテルに着くと部屋の点検を手際よく済ませ、夕食会場に向かいました。中華料理の円卓を囲った食事で、アメリカンサイズなのか、食べても食べても減りません。21時半に点呼を済ませて初日の行程はおしまい。…と思いきや、ノックに続いて、「先生、お湯が出ません。」「ハワイの人は冷水でシャワーをするんですか。」の悲鳴。ノブの一つしかないシャワーの使い方がわからなかったようです。これも異文化体

験だなど思っているうちに初日が終わりました。

二日目は雨。朝はホテルのビュッフェでビッグ・ブレックファースト。ハワイ大学に向かいました。バスがつくと雨が上がりました。ハワイでは雨が続くことがなく、晴れ間を縫ってパラパラと降る程度。開講式がとり行われ、小グループでスモール・チャットをしました。生徒は授業へ向かい、教員と添乗員はミーティング。ハワイ大学はキャンパスが広く、南国の植物が茂り、のんびりとして過ごしやすい環境。校内を引率の H 先生と散歩し、時間になって生徒を迎えに行き大学寮に着き荷物を下ろすと、ダイヤモンド・ヘッドに向かいました。



近くまで来ると、一帯が非常に乾燥しているのがわかりました。オアフ島にはスプリングカラーがたくさんあるのですが、それがないと本来は乾燥帯だと事前学習をしていました。登山中は暑くて暑くて汗が噴き出てきました。階段も急で険しい道のり。途中にある展望台へ行くと風が吹き寄せ、瞬間に汗が引きました。途中で照明の無いトンネルや、らせん階段があり、日本やったら消防法が...などと生徒と言いあっているうちに頂上につきました。風と眺めが素晴らしく、すがすがしい気持ちで下山しました。



生徒は寮で、教員はホテルで宿泊、ということで一通りの注意事項を確認。寮を後にしました。二日目も大事なく過ごせました。



三日目。寮に向かい、今日こそは寝坊が出るだろうと決めてかかって、朝点呼をとると、皆きちんと起き出ていました。朝ランニングをするなど、それぞれに寮生活を楽しんでいる様子でした。朝はフラダンスのレッスンで、陽気なインストラクターのもと、生徒に交じってレッスンを受けました。学食で昼食をとり、お昼からは生徒のインターチェンジを遠目に見学しました。和気あいあいと会話を楽しんでいる様子で、あとで聞くと、「学生さんがやさしい」、「言いたいことが言えなかった」、「こんなに長いこと（英語で）話したの初めて」と嬉々とした様子で、感想を寄せてくれました。授業が終わると、大学から歩いて20分の日本文化センター。日系移民のお話を聞き、展示物を見て、学びました。日系移民の苦難・功績があつて日本人がハワイ、アメリカで信用

を得るようになった、という歴史を興味深く学びました。「前の世代から受け継いだものを次の世代に託す責任がある（おかげさまで）」という館内のガイドさんのメッセージは生徒の心に響いたようです。センターの後はずぐ近くの薬局（ちょっとした大型スーパーくらいある）と **Teddy's Bigger Burger**（インターチェンジで学生から勧められたらしい）で少し過ごして寮に帰りました。買い物で英語を使うこと、すれ違いざまに知らない人と声を掛け合うことなど、ちょっとしたことがとても楽しかったようです。その後は寮に帰り、それぞれに時間を過ごしたようです。

四日目はハワイ大学のオカムラ教授の講義を受けました。ハワイの日系移民の歴史に関して、明治元年の移民（元年もの）から第二次世界大戦、現代にいたるまで教えていただきました。移民の経緯、他民族との移民のあり方の違い、戦時中の移民の暮らし、西海岸の移民とハワイの移民の扱いの違い、442連隊、現在の日系移民の社会的・経済的状况について大学の教養レベルの講義をしていただきました。その後、学食で朝食を済ませ、バスで移動。ビショップ・ミュージアムはハワイ王朝最後のプリンセスを偲んで建てられた学校がもとだそう。石造りの重厚な建物の中にハワイの民俗学、ポリネシア文化、ハ



ワイ王朝にまつわる展示物が収められていました。別館の近代的な建物では、火山の形成、地震、動植物をテーマにした展示やアトラクションがあり、生徒も興味深そうに敷地内を散策。その後、オバマ大統領の出身校でもある



プナホウ高校へ。日本語教諭の A 子先生、J 子先生に誘導していただき、ホール内でフリートーク。高校生同士身近な話題で盛り上がっていました。途中で三段なぞかけのアクティビティーを挟んで、グループごとにキャンパスツアーを行いました。プナホウ高校は177年の歴史を誇り（これを聞いた途端、生徒は「負けた」とつぶやく）、どの施設も規模が大きく、最新の設備を備えていました。高校生たちもスポーツ、芸術活動、探究活動に明け暮れている様子でした。別れ際に LINE の交換をしたり、写真を撮ったりしてしま



した。ホテルに戻って、ドン・キホーテに向かいました。フードコートにも店内も日本ゆかりのものとハワイのものが並んでいました。例の曲は流れていませんでしたが、青いペンギンのマスコットはありました。お茶が恋しく、見慣れたお茶を買う生徒もいれば、砂糖入りの緑茶を飲んで顔をしかめる生徒もいて、それぞれに買い物と食事を楽しんだようです。「コインもう慣れた。」という声も聞こえてきました。研修を通じて、慣れないシステムを理解し、自ら購入し、英語でコミュニケーションをし、紙幣と硬貨を払うというのもよい勉強になるよう

です。ハワイ（アメリカ）ではにこやかに声をかけて積極的にコミュニケーションをとろうとしないと（without being nice）非常にぶっきらぼうにされます。教室の中では教えられないことだなあ、と感じました。アラモアナ・ホテルに帰り、点呼をとり、終了。

五日目は、朝から講義を受けました。教員も授業の様子を見学。アイス・ブレイキングで英語のしりとりと、ブレーン・ストーミング。本人は無意識でしょうが、生徒の発音がいつもより自然。流暢さに重きを置いた授業で有意義でした。次のグループは何かを輪読している様子。部屋に入った途端“Mr. Wakamiya, do you know about superman?” 脈絡がつかめないのととりあえず、“Well, I think so.”すると、“Where is he from?” –“Maybe some kind of planet?” –“Yes, which planet?” –“Uh, krypton?” –“Yes, that’s right!” —先生の R 先生は大ベテランで、ついつい乗せられてしゃべってしまう、そういう授業をする先生でした。（ちなみに One Direction の One Thing を輪読していたようです。）学食で食べて、お昼から学生との inter-change。二度目なのでどの生徒もうんと話しやすくなった様子。終わった直後、どうやった？と声をかけると、「うわあ、いま日本語話してる。めっちゃ違和感。」の声。英語のチャンネルに切り替わっていたようです。

プログラムが終わると市営バスに乗り、ワイキキを散策。ビーチボール買ってん、の声にすかさず反応した添乗員さんが、いったんホテルに戻ってアラモアナ・ビーチに行くことを薦めてくださいました。水着に着替えて嬉々としている生徒とビーチに繰り出すと、絵にかいたような海。ヤシの木が穏やかな風に揺られ、白い砂浜に波の音、透き通った水。パシャパシャと水につかり、ビーチボールで遊んでいる生徒から振り返ると、山に虹。



ハワイで虹を見ると再びハワイに戻ってくるといわれているそうです。大学生になってバイトでもしてお金をためて、ハワイに戻ってくることがあれば素敵ですね。この日の夕食はアラモアナ・ショッピングセンターのフードコートにてそれぞれ好きなものを食べました。点呼しておやすみなさい。

六日目。朝から市営バスに乗り、ダウンタウンの史跡巡り。ハワイ大学の先生方と一緒に、生徒がグループ内で各名所について英語で説明。セント・アンドリュース教会、ステートキャピタル、宮殿などの史跡を巡りました。教会の前の噴水を飾る魚の像の意味や（もともと漁師だった使徒を祝福している）、州庁の庁舎の建築（太平洋、火山、ヤシ、自然との調和）、サンゴを煉瓦のようにして建てた建物など、



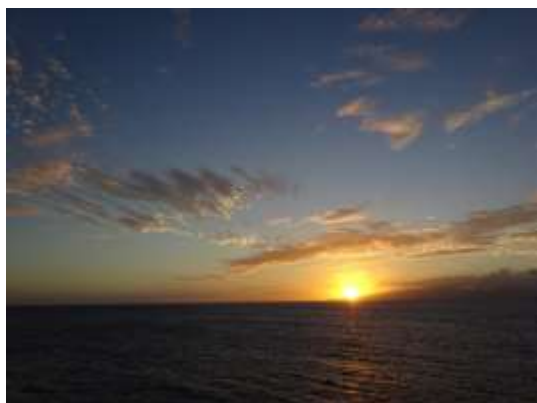
見ごたえがありました。最後はアロハ・タワーに登って、港を眺めました。チャーター・バスでハイアット・リージェンシーに向かい、修了式を行いました。ハワイ大学のLさん、僕、FさんとK君の順でスピーチを終えると、教員と生徒がテーブルを囲んでランチ。生徒は二人とも、研修で学んだことによく伝わる、立派なスピーチをしてくれました。ランチはさすが一流ホテル。で何から何までおいしい。デザートは、キャラメリゼしてココナツとクリームを添えたプリンが特に美味。しばらくして、研修班がパフォーマンスを披露しました。A班はThe CarpentersのTop of the Worldを楽しげに披露してくれました。B班はフラ・レッスンでも練習したe huliを披露してくれました。観客からもHey, you! Come to me!の掛け声。微笑ましい演技でした。その後、講師のR先生とJ先生によるスピーチ。生徒の努力と学習態度を褒めていただきました。話にあった通り、生徒はそれぞれに、英語を学ぶ第一歩をしっかりと踏み出してくれたのではないのでしょうか。最後はコーディネーターのMさんのお話でした。まずこのプログラムに送り出してくれた両親に感謝すること、「楽しかった」で終わらせずに、何を経験したか、何を見たか、学んだかをしっかりと話してほしいというメッセージに共感しました。



その後ワイキキで自由行動。買い物を楽しむ生徒や、パンケーキを食べに行く生徒、ホノルル動物園に行く生徒など、それぞれに満喫したようです。再集合には皆きちんと時間前に集合。待ちに待ったディナー・クルーズに繰り出しました。女子はおしゃれ。男子はいつも通り。なんだか微笑ましい。スター・オブ・ホノルル号に乗船。三階建て屋上デッ



キがついた立派な船。歌い手さんがのんびりとしたギターと歌を聞かせてくれました。生徒が何やら騒がしく、視線の先には某英語科の先生。なんという偶然でしょう。ウェルカム・ドリンクが供され、出港。海から見るとワイキキの市街は一層素敵。展望デッキに登って写真撮影。次第にヨットも近づいてきました。一旦席に戻って、ビュッフェ形式のディナー。一日三食ビュッフェ。なんて贅沢なんでしょう。日が傾いて来たので再びデッキ



へ。ダイヤモンド・ヘッドがずいぶん大きく見えました。日が沈みかけると生徒は「ホテルニュー○○○」と歌い出す。いよいよサンセット。雲と水面が夕焼けに。すぐに薄闇になってハワイのやわらかい風を肌に感じました。席ではハワイアン・ショーが始まっていて、生徒もフラダンスを踊りました。暗くなると花火ショー。夜景との共演です。帰港の時間が近づくと座席がクラブ会場になり、赤、青、緑の照明の元、

皆でYMCAなど馴染みのある振りを踊りました。船が停泊し、下船。生徒たちの寂しそうな顔。しみりした雰囲気の中、帰路に着きました。

最終日。この日も体調不良もなく、皆、自力で起き出してきました。楽しみ方を心得ているようで、頼もしい。朝食を済ませ、プランテーション・ビレッジへ。ここでは1840年代から100年間に渡る、プランテーション農園での生活の様子が展示物になっていました。ハワイアン、中国からの移民、本土、沖縄、韓国（当時は大日本帝国領）、ポルトガル人、フィリピン人のそれぞれの生活の様子の違い、歴史が垣間見え、研修を締めくくるのにとっても良い場所でした。日系三世のガイドのKさんにこんなにまじめに話を聞いてくれる高校生は初めて、と褒めていただき、夢を追いなさい、と激励していただきました。プランテーション・ビレッジを後にして、ホノルル空港へ。飛行機は定刻で出発。関空についたら、添乗員のOさんとKさんにメッセージカードを渡す予定。（Oさんをご結婚されて遠方へ引っ越すので、今回の添乗が最後、ということで、生徒が書いてくれました。）生徒は今映画を見たり、宿題をしたり。大阪に帰った後の32人の活躍が楽しみです。

平成29年7月30日15時04分（日本時間）機内で記す

W.K

## 生徒感想（抜粋）

ハワイ大学での研修の中で一番印象に残ったのはインターチェンジです。北野生2人とハワイ大学の大学生1人が英語で話をするというもので、僕らはこれを50分×2回しました。1回目は緊張して上手く話すことができなかったけど、その後の大学での授業やハワイでのやり取りを通してしだいに緊張が解けていって、2回目は積極的に話をすることができ、話も盛り上がりました。英語を話すことへの抵抗がなくなっていき、自分のしゃべった英語が通じることに大きなうれしさを感じました。

最も印象に残っているものはディナー・クルーズです。船の上から見るサンセットと花火は言葉で言い表せないほど美しく、とても感動しました。花火の後、席へ戻ると乗客全員がノリノリでダンスを踊っていたので私もそこに加わって一緒に楽しみました。この他にもたくさんの経験をし、そのすべてが私の一生の思い出となりました。1週間という短い期間での研修でしたが、自分が思っていた以上に多くのことを学ぶことができ本当に充実した時間を過ごせました。

もっと英語を流暢に話せるようになりたい、という新たな目標ができました。ハワイの人々はみんな陽気で、たくさん喋ります。特に **Interchange** や **Punahou School** との交流では、向こう側からたくさん話しかけてくださりました。そんな時、私は言いたいことがたくさんあるのに、それを英語で言えなくて、相槌しか打てなくて、本当にもどかしかったです。でも、私の拙い英語も、思ったよりは通じたので、自分が勉強している英語と会話で使う英語が繋がっているんだなと思いました。

ハワイ研修は勉強だけでなく観光も充実していました。ヌアヌ・パリ展望台やダイヤモンド・ヘッド、ワイキキビーチなど「テレビで見る場所だ！」とテンションが上がりました。海や景色などすべてが魅力的に見える反面、日本での生活の快適さも思い知らされました。ハワイ大学ではスターバックス以外おいしいと思えるものがなかったり、置き引きに注意しなさいと何度も言われたり、日本では当たり前なのが通用しないということを痛感しました。

ハワイでの一週間は本当にあっという間でしたが、とても濃密な時間を過ごすことができました。たくさんを学び経験したハワイでの時間は私にとって貴重な財産です。このような機会を与えてくださったすべての人に感謝します。